



和やかに華やかに

第36回古牧地区ふるさと文化芸能祭

11月3日(日)文化の日に第36回古牧地区ふるさと文化芸能祭が開かれました。古牧公民館2階集会室で展示部門の作品展が、古牧小学校西体育館で芸能部門の発表が行われました。

展示部門は93作品が並び、224の方が来場されました。また、和室で「いけばなこども教室」が開かれました。出品者の思いを紹介し



- ・陶芸は現実を忘れて、没頭することで、楽しさを感じます(五分一 70代 男性)
 - ・いけばなをすると、心が潤うのです、家の玄関に生けていかしています(西和田 70代 男性)
 - ・気晴らしに絶景にふれ、パステル画を描くことで、気持ちがホッとします(平林 60代 女性)
- 芸能部門の第1部は学校・各種団体10組、第



2部は地域公民館4組、総数340の方が出演され395の方が来場されました。

・4年前より、古牧音頭の立上げに苦勞し、今日お披露目でき、嬉しい、これからも頑張ります(南高田 90代 女性)

閉会式のお目当て大抽選会。特等賞、ダイソン・ハンドクリーナーを獲得された幸運な方は、西和田の井原倫子さん(91歳)。「今日は古牧音頭を踊り、特等賞をいただき、こんなに嬉しいことはございません」とおしゃっており、逆に元気をちょうだいいたしました。



今回の文化芸能祭では、台風19号災害義援金をお願いしました。みなさまの心温まるご協力により、49,277円の義援金が集まりました。ありがとうございました。

(公民館部)

防災と環境美化で合同研修会

10月23日(水)から24日(木)、住民自治協議会の会長、副会長、総務部、自主防災会、環境美化部の29名が参加して伊那市、岡崎市、名古屋市方面への視察研修が行われました。

1 伊那市の防災対策の取り組みの視察

研修会場で伊那市総務部危機管理課の小松剛主査からいきなり「みなさんは助けに来てくれる人はいますか？いる方は手を挙げて」と問いかけられました。

自主防災の基本は「自分の命は自分で守る」ですが、避難できないなど命を自分で守れない方もいます。迅速な避難には地域の力が必要です。伊那市は「目指せ！逃げ遅れゼロ」を目指し、行政指導で地域防災組織をつくるのではなく、身近な組織から積み上げ広げていました。例えば、隣組が避難困難者を把握し避難経路を作成、部・区・地区へと積み上げ広げます。

この手法は「安心できる地域」づくりにつながると感じました。

2 岡崎市消防本部中消防署の見学

全地形対応車(通称：レッドサラマンダー)の機能等を岡崎市消防本部の松浦聡消防監から説明を受けました。レッドサラマンダーは、総務省消防庁から緊急消防援助隊車両として、全国に1台、同本部へ配備されたもの。荒地、不整地、段差、溝、土砂の上、瓦礫など、一般車



両では走行不能な災害現場や、浸水地などでも走行できる頼もしい消防車両です。

これまで2度、災害現場へ出動しています。



出動の経緯をうかがい災害現場へ救助隊員と物資を搬送し、救助作業を行っているビデオ記録を視聴。レッドサラマンダー実物と搬送車両、支援車両に乗せていただきました。

3 グリーンサイクル株式会社の視察見学

名古屋市のグリーンサイクル株式会社にて、テレビ・エアコン・冷蔵庫・パソコンのリサイクルの必要性の説明と解体作業を見学しました。

「正しい家電の捨て方は何でしょうか？」正解は買った時のお店に引き取ってもらうか、各市町村の指定処理業者に出すのが正解です。グリーンサイクル株式会社では手で解体し部品を分別して99%をリサイクル、残りの1%が最後のゴミとして埋め立て地へ運ばれているとのことでした。手で解体する作業は大変と感じたのと同時に、リサイクルの必要性も再認識しました。

全国には同様のリサイクル会社があくつかあり、災害ゴミの受け入れもしているとのこと。ただし、おおむね1年で処理できる量が受け入れの限度ですが、台風19号の災害ゴミも受け入れ始めたとうかがいました。

(総務部・環境美化部)

みんなかがやく作品展 —平林区「かがやき展」—

今年も恒例の作品展「かがやき展」が10月23日(水)から11月4日(月)まで市内東町の「門前商家ちよっ蔵おいらい館」で開かれました。

平成24年に始まり今年が7回目となります。企画・開催しているのは平林区老人クラブ「安達会」のみなさんです。

この企画の発端は、ゲートボールや温泉旅行が中心の安達会活動をもっと生き生きとできないものかと議論が盛上った中で、意外とみんな隠れた才能を持ち優れた作品が各家庭に眠っていることに気づいたことからでした。

これらを多くの方々に観てもらうことで、住民をより良く知り交流が深まるのではないかと思った訳です。しかも、市内中心地の「ちよっ



蔵おいらい館」で作品展を開くことで、平林地区ばかりでなく他地域の方や通りすがりの方たちにも観ていただくことができるという利点があります。

今回は、絵画、写真、切り絵、短歌、書、蝶など約50点を展示したほか、来年の東京五輪を控え、『開幕まで8ヵ月・輝くオリンピック特番』としてコーナーを設けました。毎年トピックスを作って特徴を出して開催しています。

「かがやき展」の係のお1人は語ります。「『かがやき展』を通して、みんながテーマを持つと1年1年が楽しみになり希望が湧く。老人が生き生きとし、そこから地域が活性化していければと取り組んでいます。」(平林区通信員)

楽しく仲間と料理 —男性の料理教室—

男性の仲間づくりと地域参加を目的とする事業のひとつに「男性の料理教室」があります。食生活改善推進協議会古牧のみなさんの協力を得て年4回開催しています。参加資格は古牧在住の男性で年齢不問です。今年度3回目は11月12日(火)古牧公民館で16名が参加。講師の伊藤君代先生と3名の先生方がそれぞれのグループに一人ついて、シューマイ・ひじきの香ばしミルク煮・きのこ豆乳スープの三品を作りました。

「初めて作ったが上手にできた。早速うちで作ってみたい。次回は餅を使った料理を教えてください」など、感動、喜びの声をいただきました。調理のこつとしてシューマイは型の大きさをそろえると均一に蒸らせることや、乾燥ひじきは水でサッと洗う程度が歯ざわり良い、また、

きのこ類は調理前に天日干しすると味も栄養もアップする等いろいろ教えていただきました。



共同作業の料理作りや出来栄への感想など会話も弾む楽しい食事会です。料理を作ることは段取り、手順を考えることや手、指を使うなど認知症予防にも役立つようです。次回は新年1月21日(火)を予定しています。回覧でご案内をします。多数のみなさんの参加をお待ちしています。ちょっと本格的な料理のコツを学んで男性も大いにキッチンに入り、新メニューに挑戦してみませんか。(福祉健康部)

12月から1月までの主な行事のお知らせ

(多くの皆様の参加をお待ちしています)

事業名	実施日	場所	実施内容	主催
年末防犯夜間パトロール	12月	各区	夜間防犯パトロール	防犯部
ひとり暮らし高齢者の集い	12月16日	古牧公民館	おいしい食事と交流会 定員20名	ボランティアセンター 244-8159
ほんわか健康塾こまき	1月～ (3か月)		介護予防の取組みです 65才以上 で足腰に不安がある方が対象です	
男性の料理教室	1月21日		男性の皆さん、料理に挑戦しませ んか!	

娑婆鉛筆

信じられない現実

「山に囲まれているけど、災害が少なくて、長野は住みよいところだねえ。」

と、皆が挨拶代わりに交わしていたことが、信じられないことになった。

去る、10月12日夜中に娘家族より、「千曲川が危ない」の一言です。スマートフォンの情報で、警戒水位を越えることを知り、娘家族は避難しました。避難所の駐車場は、ほぼ満車でやっと車をとめられる状況でした。不安な気持ちで車中で一晩過ごした娘家族は、自宅は無事で帰宅する



ことができました。

孫がバスケットボールの練習拠点としていた小学校は、廃墟と化し、有志の父母たちによる復旧活動が行われ参加しました。

近年、東日本大震災から始まり、各地の災害を画像で拝見していましたが、現に目の当たりにして、信じられない気持ちです。

地球温暖化が問題視されている中、災害がないことを祈るばかりです。

(荒井一郎)



古牧地区の世帯数と人口

令和元年11月1日現在

11,487世帯

26,705人

(男 13,173人 女 13,532人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359・FAX 219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 長田 元行
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 SR